



また一つ世界が広がった・・・ 長崎平和学習旅行

高校3年生 阿比留ともみ

「東京高校生平和ゼミナール」の高校生と共に

私は高校1年生のときに広島の原水爆禁止世界大会に初めて参加しました。その時は、群馬の高校3年生6人と一緒に群馬から参加しました。今年も参加したいと伝えたところ「東京高校生平和ゼミナール」というところから高校生が何人か参加するから、そっちに合流することもできる」と提案されました。同年代の子たちと学ぶ良い機会と思い、参加することにしました。東京の高校生と3泊4日をうまく過ごせるか心配でしたが、6人がそれぞれに個性を持っていて、この4日間は意見交換という点でとても刺激を受け、また一つ世界が広がったと思います。

長崎での原水爆禁止世界大会と「原爆資料館」

原水爆禁止世界大会は、自分が知らなかったことを当事者、あるいは語り継いでいる人から直接聞くことができる数少ない機会です。1日目は長崎に着いてすぐに原水爆禁止世界大会の開会式に出席し、その後「原爆資料館」に行きました。長崎の資料館は広島とはまた違って、時系列が整理されていて、過去から現在までの歩みをわかりやすく伝えていました。触ることができる展示物も多くあり、原爆の熱風によって表面が溶けたコンクリートの破片をじかに触り原爆の威力を再確認できました。この平和学習旅行では、宿舎に帰るとまずは今日一日で感じた事、初めて知ったことなどを高校生や引率の大人の方みんなで共有し、感想交流を行います。同じところを見て回り、同じ話を聞いたのに、聞く人によって心の残ったことや、注目した点がこんなにも違うのかと思うほ



被ばく鳥居（山王神社）

どみんなの感想が様々で驚いたし、その違う視点でとらえて感じたことをその日のうちに話して交流できたことはとてもよかったです。

マーシャル諸島のアバッカさんの話

2日目は「全国高校生平和集会」に参加しました。この集会で私は群馬県の代表として報告しました。内容は、4月に私を含めた高校生6人で「沖縄平和学習」を企画し、沖縄の歴史、沖縄不屈の戦いが現代にも生きていること、沖縄の問題は沖縄の人だけの問題だけではないことを現地に行き、聞いて学び、それぞれの心に刻むことができた2泊3日の学習旅行のことです。午後の分科会では「世界のヒバクシャと語ろう」に参加しました。そこにはマーシャル諸島から2人と韓国から来た2人が話をしてくれました。マーシャル諸島のアバッカさんは、「水爆実験の際に発生する白い灰で家族が影響を受けた。アメリカが少ない賠償金を払うが足りない。なぜなら病気は続くからだ。マーシャルにはガン専門の医者や病院がな

いため、タイやフィリピンで治療を受けるが、それによる家族への経済的負担は大きい」と、繰り返行われた水爆実験の被害に今なお苦しんでいること話してくれました。アメリカは表面的に賠償金を支払いましたが、その額はとても島民のことなど考えていないほどに少ないと感じました。分科会参加者が「日本も一時期マーシャルなどを侵略したが、日本に対する恨みなどはないのか」と質問したところ。「日本は戦後、学校などを建設してくれた。電気も普及させてくれた。日本人は思いやりがあり、マーシャルにはないものをくれた」と、過去にいがみ合いがあっても、その地域の人たちとまた信頼関係や、良好な関係を作ることができるのだと実感しました。

「岡まさはる記念資料館」での衝撃

3日目は「岡まさはる記念資料館」に行きました。長崎駅から徒歩10分ほどで着くこの資料館は長崎平和学習旅行の中で私が一番衝撃を受けた場所と言えます。たくさん資料があるのに、私はその中の何一つ知らなかったのです。この資料館は日本が朝鮮半島を植民地支配していた時のことや、戦争中に日本がアジアになにをしたのかなどが写真と文字で記録されています。時間の都合ですべてを見ることは出来ませんでした。ここに来れば教科書に載っていない日本の加害の歴史を詳しく、そしてリアルに感じるができると思います。私はこの資料館で思ったこと、感じたことを忘れません。

日本は過去と向き合ってきたか

日本は戦争の被害者です。同時に日本は侵略戦争の加害者でもあることについても深く考えさせられました。

「過去に目を閉ざすものは現在に対しても盲目になる。過去の罪を心に刻まなければ和解の道はない」はドイツの元大統領のワイツゼッカー氏が演説で言った言葉です。ドイツが戦前に犯した非人間的行為に目を向けなければ過ちが繰り返されるというメッセージをドイツと世界に発信しました。ドイツはありのままを伝えていくことが、教育などを通してできていると思います。

日本はどうでしょうか？過去と向き合ってきたのでしょうか？ アメリカ人に、なぜ日本が戦争中に犯した罪の記述が少なく、自分たちも知らないのだろうか？という疑問を投げかけたところ、日本人は戦争中に犯した非人間的な行いを恥じと思うから、口をつぐんできた、という答えが返ってきました。なるほどな、と思い、同時にそれはよくないと思いました。私たちが本当に憎むべきは、過去に犯した非人間的な行いではなく、その非人間的な行為を、いとも簡単にさせてしまう「戦争」そのものだと思います。だから私たちは「戦争」で起こった事実を知ることが必要なのです。もう戦争を起こさないためにも。大事なことは過去を知ること。長崎平和学習旅行はそのきっかけをくれました。今後も平和な世の中になるように、学んだこと、感じたことを忘れずに学んでいきたいです。

